



伝統を受け継ぐ

教育長 津野庄一郎



関川村上土沢集落で、村の無形民俗文化財（民俗芸能）に指定（昭和53年）されている「上土沢神楽」が、23日の午後、山間にある「秋葉神社」境内で奉納されました。コロナ禍や担い手の高齢化で実施が危惧されている中、地元の有志は伝統を絶やさぬよう思いを込めて、その舞を力強く披露しました。

「上土沢神楽」の由来は、^{げんぶん}元文年間（1736～1741年）、今からおよそ280年前頃に旧黒川村方面から伝わり、集落の神明宮や秋葉神社の祭礼に奉納され、また、家々を回り家内安全、五穀豊穡を祈願したものと伝えられています。戦中、戦後としばらく途絶えていたそうですが、昭和52年に有志が保存会を結成して伝統を受け継いできたとのこと。今は「^{つるぎ}剣の舞」は子どもが少なくなったので断念したとのこと。それでも「神楽の舞」は、笛と太鼓の5人と舞い手の3人が練習を重ね、本番当日に備えてきました。

この日は、私も軽トラックに乗り込み迂回路の林道を進みました。（先の水害により参道が崩れたため）胎内市の福定^{ふくじょういん}院住職によるほら貝や拝み上げの後、参列者が護摩木を燃やして除災招福等を祈願してお神酒を回し、最後が神楽の舞の奉納です。保存会代表の小島正（同級生）さんは「何とかやれてよかった」と安堵の笑みを浮かべました。

宗教や信教をどうだ、こうだというのではありません。ただ、地域の伝統文化を受け継ごうと人知れず努力している人を応援したいのです。村の集落にある宝をみんなで守っていきましょう。

<【写真】上：神楽の舞、下：護摩祈祷の様子>